

「微破壊試験を活用したコンクリート構造物の健全性診断手法調査研究委員会」
第4回 全体会議 議事録(案)

議事録担当:松林

■日時: 2011年6月23日(木) 15:00~17:00

■場所: JCI 12F 第3会議室

■出席者: 二羽委員長, 安田副委員長, 堤幹事長

(幹事)岩波

(委員)横沢, 森濱, 鎌田, 下村, 斎藤, 田村, 吉田, 小林, 小川, 濱崎, 松林

(事務局)川上

以上16名(敬称略)

■資料:

- 4-0 第4回全体会議 議事次第
- 4-1 第3回全体会議 議事録(案)
- 4-2 第3回主査・幹事会 議事録(案)
- 4-3 JCI委員会資料(様式1)
- 4-4 微破壊・非破壊試験の活用方法に関するアンケート(案)
- 4-5 WG1 第4回WG議事録(案)
- 4-6 非/微破壊試験技術の現状と課題整理部会(WG2)活動報告
- 4-7 WG資料(補修・補強の現状調査と課題整理部会(WG3))
- 4-8 WG4の設立と進め方(案)
- 4-9 報告会スケジュール(案)
- 4-10 文献の引用について(依頼)

■議事:

1. 委員長挨拶(二羽委員長)

2. 第3回全体委員会議事録確認(松林委員)

資料4-1に基づき第3回全体委員会の議事録の確認を行った。

➤ 特に修正意見はなく, 了承された。

3. 第3回主査・幹事会議事録およびJCI研究委員会での報告内容の確認(堤幹事長)

資料4-2に基づき第3回主査・幹事会の議事録の確認を行った。また, 資料4-3に基づきJCI研究委員会での報告内容を確認した。

[主な確認事項]

- ・本委員会のニーズを引き出すためにアンケートを実施する。
- ・新たに立ち上げるWG4の主査は安田副委員長, 幹事は岡本委員にお願いする。
- ・本委員会の報告会(シンポジウム)は平成24年6月1日(金)開催を目標とする。報告内容は, ①午前中に

委員会活動報告, ②午後は事例紹介の場とする。③基調講演を行うことも考える(魚本土研理事長に依頼予定)。会場は東工大の施設を仮予約している。

4. アンケート内容に関する説明(安田副委員長, 鎌田委員)

本委員会のニーズを引き出すために実施するアンケートについて, アンケート(案)が示された。

[挙げた意見]

- ・非破壊試験のみが選択される可能性があるので, 微破壊試験だけを分けて質問するような工夫が必要ではないか。
- ・実際行っている方法と本当は行いたい方法が比較できるようになると良いのでは。
- ・web を使ったアンケートを利用したら良いのではないかと。Google に無料で利用できるシステムがある。社会情勢とコンクリート産業構造の関連性検討研究委員会で利用しているので参考にすると良い。
- ・紙でのアンケートとなるが, 学会の年次大会において, 関連するセッションの会場で配布したらどうか。
 - 意見を参考に 7/5 までにアンケートを見直す。(鎌田委員)
 - JCI 年次大会の会場で配布・回収する。
 - web によるアンケート実施を別途検討する。(松林委員)

5. 各 WG 活動報告

(1) WG1 の報告(田村主査)

資料 4-5 に基づき WG1 の活動報告が行われた。WG1 の執筆内容は大別すると以下の 4 つとなる。

- ①コンクリート構造物のサステナブル生産技術基盤化を目指す, 微破壊/非破壊による構造物の的確な健全性評価手法確立の重要性確認
- ②最新の健全性評価手法・マニュアルの現状と課題の抽出
- ③健全性評価手法に対して実際に実施, 運用されている状況の把握
- ④これらを踏まえた, 微破壊/非破壊による健全性評価の展望, 方針
 - 引き続き作業を進める。②, ③については WG2, 3 の執筆内容とラップしないように留意すべき。

(2) WG2 の報告(鎌田主査)

資料 4-6 に基づき WG2 の活動報告が行われた。WG2 の活動の目的とメンバーの調査分担について説明があった。

- 引き続き作業を進める。WG1, WG3 の活動状況を踏まえた上で全体を俯瞰するような図があると良い。

(3) WG3 の報告(岩波主査)

資料 4-7 に基づき WG3 の活動報告が行われた。これまでに収集した補修・補強事例をもとに微破壊試験の利用が LCC に及ぼす影響について分析を進めており, 今後は報告書の目次構成を考えて執筆を分担する予定。報告書執筆の際は過去の事例で行われたことを否定しないように留意する。

- 引き続き作業を進める。

6. WG4 の設立と進め方について(堤幹事長)

資料 4-8 に基づき WG4 による提言内容, 具体的検討事項, 進め方(WG メンバー)について説明があった。

- ・非/微破壊試験で得られた情報を活用して, 部材中の現状の劣化程度とその位置的なばらつき, 劣化予測に基づいた健全性評価法を提言する。

- ・適切な試験法の選定手順, 適用場所および数量の選定手順, 試験結果に基づいた部材健全性の評価手順を提示するとともに, 提案事項のメリットをケーススタディにより提示する。
- ・主査を安田副委員長とし, 堤幹事長, 岡本委員, 各 WG 主査, 下村委員, 斎藤委員を主要メンバーとする。

[挙げた質問]

- ・健全性のアウトプットは何か。また, どのような劣化状況をターゲットとするか。(下村委員)
 - どのレベルを設定して評価するかというところからスタートする必要がある。
 - WG4 は近々日程調整を行う。

7. 報告会のスケジュール案および文献の引用についての確認(川上氏)

資料 4-9, 4-10 により, 報告会までのスケジュール案, 文献引用する際の手続きに関する説明が行われた。

- ・参加募集会告の提出期限 → 1 月末
- ・最終全原稿締め切り → 4/25
- ・文献引用の依頼提出 → 3 月末

8. 今後の予定

次回全体委員会

日時: 9 月 14 日(水) 10:00~12:00

場所: JCI 会議室

以上